

NPO 北海道思春期  
教育ネットワーク  
夏季セミナー

Gift for you

8月21日(土)

13:00~13:30

激変する社会環境を

直視する思春期教育私論

札幌学院大学地域社会

マネジメント研究科客員教授

高須喜久男 氏

13:40~16:30

問題行動と呼ばれる行動を

呈する子どもたちのために

私たちは何をすべきなのか

北翔大学人間福祉学部

福祉心理学科准教授

飯田昭人 氏



なんと1年ぶりのご無沙汰になりますが、皆様お変わりありませんか？

昨年は新型インフルエンザ対策で大変な思いをした方も多かったのではないのでしょうか。

さて、本セミナーも早いもので7年目を迎えました。

この6年間は、皆様の想いの積み重ねの軌跡でもあります。その想いを大切に、今回も皆様の声をもとに夏季セミナーを企画いたしました。「ご案内」でも触れましたが、初日を半日日程で組んでみました。遠方から参加される場合、泊数を短縮することができるかと思います。

半日減っても、皆様には学びあい、分かち合い、情報交換をし交友を深める二日間にしていただければと思います。

それでは、今回も「ご案内」では語り尽くせない魅力の一端をお届けします。

## 魅力あふれる講師陣

### 高須 喜久男 氏

本世話人会顧問である高須氏は、東京大学工学部建築学科卒業です。元株式会社シグマ都市コンサルタント代表取締役として多くの地域プロジェクトに関わり、札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科教授を経て現職にあります。

「これからの思春期教育を考えていく上で、従来の路線上で重要だと考えてきたこと以上に子供たちを取り巻く環境が激変していることに驚かざるをえません。教育に携わる専門家としても現実の変化を体得しておかなければ、見当違いの教育になってしまうのではないかと危惧しています。日本は、激変の真っ只中であって（情けないことですが）、変化に適応しきれずに流されているというのが現実だということを認めざるをえない心境です。その一端を私的な意見を交えてご紹介します。」（高須氏）

### 飯田 昭人 氏

飯田氏は、以前北海道警察本部少年課少年サポートセンター少年心理専門官として様々な若者と向きあってきました。

その様々な経験から現在は、「困難を抱えた子どもとその家族への支援のあり方」について研究されている北翔大学の若手研究者です。

学生には「子どもや家族から信頼される人間になってほしい」と熱く語り、その熱意あふれる姿勢と経験から教育者向け研修会のご講演も多い先生です。

是非この機会に、飯田先生とともにこれからの社会を生きる子どもと家族について一緒に考えてみませんか。



8月22日 (日)

9:30~10:50

子供たちの今

石橋病院院長

白坂 知信 氏

11:00~12:20

緩和医療が目指すもの

旭川医科大学麻酔科・蘇生学講座教授

岩崎 寛 氏

13:30~15:30

「生きづらさ」を抱えた

子どもたち

～バウムハウスの生活から～

情緒障害児短期治療施設

バウムハウス施設長

宮地 迪彦 氏



## 白坂 知信 氏

白坂氏は、札幌医科大学卒業後、小樽市にある石橋病院に勤務、1年間米国留学し帰国後平成11年副院長、16年12月院長に就任。現在、札幌医科大学医学部臨床教授でもあります。

アルコール、薬物、摂食障害等、家庭内の諸問題、思春期問題などが専門で、特に保健所を中心に地域ネットワークを作り、学校での予防教育、地域への啓発活動、断酒会など自助グループの育成に励んでおられます。思春期問題、家族問題、PTSD、AC問題のエキスパートである白坂先生から大いに学びましょう。



## 岩崎 寛 氏

岩崎氏は札幌医科大学にて学び、1998年に旭川医科大学麻酔蘇生学講座に赴任しました。緩和医療は、痛み等の身体症状を緩和するだけのことでなく、限られた人生を人間らしく生きるために患者・家族を支援する人生の質を考えると意味では哲学や社会学といった学問分野、宗教の分野にまで拡がりを持っている広くかつ深い領域です。きっと岩崎先生の語る言葉から深く考えさせられます。

ちなみに、2008年秋に放映された倉本聰氏脚本の『風のガーデン』、死を目の前にした麻酔科医である主人公が絶縁していた家族のもとへ戻っていく物語を通して“生きること・死ぬこと”を描いた人間ドラマでしたが、実はこの医療監修をなさったのが岩崎氏です。



## 宮地 迪彦 氏

宮地氏は、法務教官として少年院に勤務後、児童福祉司として道内の児童相談所を歴任。北海道函館児童相談所長、北海道立大沼学園長を経て、現職の他、伊達市特別支援教育推進委員、伊達市要保護児童対策地域協議会長等の公職も抱え、大変多忙な毎日をお過ごしです。

バウムハウスは、これまでにない空間構成のなか（ホームページをご覧ください）、様々な試みを行っています。

「北海道でただ1つの情緒障がい児短期治療施設です。自然豊かな伊達の地で子どもたちは懸命に『育ちなおり』の時間を紡いでいます。

虐待や発達障害を抱えて暗いトンネルにいる子どもたちの生活について一緒に考えましょう！」

(宮地氏)



「我慢できる子をこう育てる」(多湖輝・PHP文庫)、最近手にした文庫本です。

分かりやすく現代社会の肩凝りを解きほくしてくれる一冊です。「我慢できる子」から始まって、より豊かな未来に向かって「チャレンジできる子」へ進化させたいものだと思います。心を働かせ感動を呼び起こすことを忘れないようにしたいものです。世界に羽ばたく子を育てるためには、長期的で国家的な戦略から、身近な家庭や学校における基礎教育を原点に立ち戻って考え行動しましょう。私たちが現状に流されて、明日に先延ばししていたら子供たちの未来は危ういものになってしまいます。

(高 須)



### NPO北海道思春期教育ネットワーク世話人

顧問：藤井 美穂 (カレスサッポロ時計台記念病院女性総合診療センター長)

高須喜久男 (札幌学院大学地域社会マネジメント研究科客員教授)

代表：杉山 厚子 (北海道公立大学独立法人札幌医科大学保健医療学部准教授)

丸岡 里香 (北翔大学人間福祉学部福祉心理学科准教授)

野口 直美 (北海道旭川東栄高等学校養護教諭)

事務局：水田 千尋 (看護師)